

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
大阪ビジネスカレッジ専門学校	昭和57年3月31日	青山 直	〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜1-1-7 (電話) 03-6344-5268																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河町二丁目11番地 (電話) 03-5283-6288																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
商業実務	ビジネス専門課程	ペットビジネス学科	平成13年文部科学省告示第84号	-																					
学科の目的	ペットに関わる職種を目指す学生の「犬が大好き」という気持ちを高める。「犬が好き」という気持ちに、さらに責任感・忍耐力を伴う人材の育成、その学生にあった就職先へ送り出し、ペット業界の発展を担う。																								
認定年月日	平成〇年〇月〇日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
2	昼間	1920	824	0	1248	0	0																		
時間																									
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
320		122	0	5	14	19																			
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 1. 2年次前期・後期の試験評価・平常点による																				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月26日～9月5日 ■冬季:12月20日～1月9日 ■学年末:3月20日～4月4日			卒業・進級条件	卒業条件:試験、提出物評価などに合格し、規程の卒業単位を取得した者で、本校所定の課程を修了し、且つ学費の完納者。 進級条件:卒業見込み者																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人へのカウンセリング、必要に応じ保護者との連携により対応する。			課外活動	■課外活動の種類 エクステンション講座・施設見学・学園祭などの実行委員会など																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) トリミングサロン、ペットショップ、動物病院			主な学修成果(資格・検定等)※3	■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																				
	■就職指導内容 インターンシップ実施、面接指導				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>27人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>60</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>トリマーC級ライセンス</td> <td>③</td> <td>20</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士1級	③	27人	25人	愛玩動物飼養管理士2級	③	60	44	トリマーC級ライセンス	③	20	9		
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
愛玩動物飼養管理士1級	③	27人	25人																						
愛玩動物飼養管理士2級	③	60	44																						
トリマーC級ライセンス	③	20	9																						
■卒業者数 56 人 ■就職希望者数 51 人 ■就職者数 51 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 91.07142857 %			※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																						
■その他 ・進学者数: 1人			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																						
中途退学の現状	■中途退学者 10名 平成31年4月1日時点において、在学者122名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者112名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 修学意欲の低下、人間関係、経済的理由など			■中退率 8%																					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																								
当該学科のホームページURL	https://www.obc.ac.jp/																								

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学生が実務的専門知識・技術を習得することは、社会においてその貢献や意義は大きく高等教育において専門学校の位置づけは更にその度合いを増している。その状況において、本校が企業との連携によって教育機会を提供することは、社会への貢献度が増し企業が要望する人材の育成に繋がる。

企業との連携を通じ、学生に実践的知識や技術を修得させるとともに、職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図り、学生全員の就職を目的とし、必要に応じて授業科目や授業法の改善・工夫を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人Adachi学園設置 大阪ビジネスカレッジ専門学校に關係する、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、學術關係者から選出し、校長が委員の中心となり委員会を設置。委員会の意見等は校長の配下の各学科の分科会等で具現化する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名前	所属	任期	種別
花本 直和	公益財団法人 日本漢字能力検定協会	令和2年4月1日 ～令和6年3月31日	①
山本 眞弘	株式会社 夢現社	令和2年4月1日	③
白倉 亮一	株式会社ジャヴァコーポレーション	令和2年4月1日	③
澤原 眞佐代	株式会社 玉屋	令和2年4月1日	③
小柴 昌弘	マックススポーツ株式会社	令和2年4月1日	③
青山 直	大阪ビジネスカレッジ専門学校 校長		
葛山 茂樹	大阪ビジネスカレッジ専門学校 学務責任者		
須田 將昭	大阪ビジネスカレッジ専門学校 事務長		
井上 和美	大阪ビジネスカレッジ専門学校 専任講師		
武知 達也	大阪ビジネスカレッジ専門学校 専任講師		
仲谷 吉隆	大阪ビジネスカレッジ専門学校 専任講師		
丹野 夏絵	大阪ビジネスカレッジ専門学校 専任講師		
奥田 陽色	大阪ビジネスカレッジ専門学校 専任講師		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (4月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成31年3月20日 13:00～17:00

第2回 令和元年9月20日 13:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

専攻分野の業界団体、企業様より、該当産業分野全体の成り立ち、企業現場での実務(開発、生産、流通、利潤の獲得、利潤の再分配、再生産)の流れを授業に取り入れてカリキュラムの編成を行う

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界での実績がある企業であること。また、実際の店舗運営、生体管理、生体流通の仕組み、用品の仕入れ・販売、接客などについて十分な理解があり、且つ学生指導に十分対応できる講師の人選。カリキュラム内容について担当教員と企業・事業者と授業内容や評価について事前に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と連携し、講師が打ち合わせを行い、カリキュラムを立案する。

ペット業界に必要な専門技術、専門知識、ビジネススキルなどを学ぶために講師を派遣していただき、講義・実習を経て、将来ペット業界で即戦力として働くことができる人材を育成する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
必須選択	猫の種類や特徴・性質などを学び、犬だけでなく猫も扱えるスキルを学ぶ	有限会社エイコク

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修等」を実施し、教員として必要な知識と質の向上を図り、学生の知識・技能等の修得と充実した学校生活を提供できるよう、定期・不定期に拘らず関係教職員の指導力向上を目指すことを目的として実施するものとする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「捨て犬、捨て猫の保護①」(連携企業等: 日本アニマルトラスト)

対象: 専任教員6名、非常勤教員9名

内容: 人と動物の共存について、命の重さについて、動物保護施設の運営の厳しい現状を資金面な周辺環境の具体例を織り交ぜて、本校の教員を対象に講演いただく。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

本校学生相談室カウンセラー、臨床発達心理士による研修会の実施。

教室で使える心理学Ⅰ(コミュニケーションと支援の種類、主たる発達障害の理解)

教室で使える心理学Ⅱ(コミュニケーションが苦手な学生への指導法)

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「捨て犬、捨て猫の保護②③」(連携企業等: 大阪府動物愛護管理センター)

対象: 専任教員6名、非常勤教員9名

内容: 現場担当の方々とのディスカッションを通じて施設の業務内容や、本校のカリキュラムの相互理解を図る。施設維持の活動内容を、本校学生へ伝え、次の段階として、本校の学生による保護犬・猫へのボランティアグルーミングの実施へ繋げる。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

本校学生相談室カウンセラー、臨床発達心理士による研修会の実施。

教室で使える心理学Ⅲ(自閉症スペクトラム・広汎性発達障害、注意欠陥)

教室で使える心理学Ⅳ(ストロークの授受にはパターンがある、異なる人には異なるストローク)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価や日常の学校教育に対しての評価・意見内容を教育活動面と学校運営面に分別し、学務・広報・事務の三位の各部門で運営方針に照らし協議・検討する。その結果、授業内容に取り入れたり、改善・修正を要するとした場合は、部門よりを責任者会議に具体的な稟議提案を上申し、最終的判斷することによって、学校関係者評価の効果的な活用を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学園の理念、学校の目的・特色の明確化と育成する人材像
(2) 学校運営	運営方針に即した事業計画が策定、運営組織の意志決定機能の円滑
(3) 教育活動	職業教育に適するカリキュラムの策定に際し、その学科の関係する業
(4) 学修成果	学校継続率、就職率の向上
(5) 学生支援	在学生への経済的・健康管理・生活全般への支援体制並びに卒業生
(6) 教育環境	授業運営上の付属施設、設備、実習施設の環境及び防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	学生募集全体の適正と活動上における教育成果の正確な伝達の確認
(8) 財務	予算・収支計画の有効性と財務面の適正
(9) 法令等の遵守	法令の遵守、個人情報取り扱い確認
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

基本方針に即し、とりわけ学科の教育目標、育成人材像が業界のニーズに対応できているか、カリキュラムは体系的に編成され、各教科目はカリキュラムの中で適正な位置付けされているか、卒業者就職率・求職者就職率・専門業界就職率の向上が図られているかなどの点を学校関係者評価委員からの評価を重視し、学校運営に活かす。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 匡史	株式会社東京ビジネス	令和2年4月1日～ 令和6年3月31日(4年)	企業等委員
川瀬 博之	イオンリテール株式会社	令和2年4月1日～	企業等委員
岡 真由美	有限会社 PURENESS	平成29年4月1日～	企業等委員
森本 博士	株式会社 創英	令和2年4月1日～ 令和6年3月31日(4年)	卒業生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.obc.ac.jp>

公表時期: 令和2年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全般の状況を広く学校関係者他に情報提供することによって、学生・保護者、業界関係者の学校への理解、信頼を深め、社会に対する説明責任を果たす。また、企業、関係団体等とは連携、協力を行うことによって、カリキュラム策定の際に、助言、指導を頂き、実践教育の質を高めることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の精神、所在地、校長名、沿革・歴史
(2) 各学科等の教育	設置学科の入学定員・収容定員・在学学生数、カリキュラム、進級・卒業
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	健康診断、カウンセリング体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金、経済的支援活動
(8) 学校の財務	資金収支計画書・消費収支計画書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価表
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.obc.ac.jp>

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程ペットビジネス学科) 令和元年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアプランニングⅠ	就職・入社試験対策として、一般教養の学習とともに、自己分析・模擬面接などの実践を通し内定に結び付ける力を身に付ける。	1 通年	64			○		○		○		
2	○			ビジネス能力3級	社会人として必要なビジネス理論・社会常識などの技能レベルを客観的に基準で評価するビジネス文書能力検定・ビジネス能力検定ジョブパスの3級取得を目指す。	1 通年	64			○		○			○	
3	○			Word演習/ IT活用	ビジネス文書作成、ダイレクトメール作成等、実務レベルでの知識・技術を習得する。	1 通年	64					○	○			○
4	○			グルーミング実習(1)～(8)	犬の扱い方、道具の扱い方、ベーシック作業の重要性を理解しながら、技術の習得を目指す。	1 通年	512			△		○	○			
5	○			愛玩動物飼養管理士2級	愛玩動物飼養管理士2級取得に向け、「動物愛護法」の理念・内容を理解し、飼い主様の様々な相談に対応する力を身に付ける。	1 通年	64			○		○			○	
6	○			ペット健康管理	犬の体の仕組み、健康管理法、様々な犬の病気の原因・症状・予防法などを学び、犬のケアに関する知識を習得する。	1 通年	64			○		△	○		○	
7	○			犬種学	数多くの犬種の名称・性格の傾向・ルーツを学び、様々な犬種に関する知識を身に付ける。	1 通年	64			○		○			○	
8	○			必須選択	猫の特徴・扱い方・犬との違い・種類を学び、犬だけでなく猫に関する知識も身に付け、昨今の業界のニーズに対応する力を身に付ける。	1 通年	64			○		△	○			○ ○
9			○	トレーニング実習(1)～(4)	家庭犬のしつけから、警察犬の調教に至るまで、あらゆる犬種の幼犬期から成犬期への訓練の方法を基礎から学ぶ。	1 通年	128					○	○			○
10			○	販売士検定対策3級	ビジネス基礎とマーケティングの2科目に合格すれば、販売士検定3級科目、マーケティングが免除される。英語に関する出題もある。	1 通年	64			○			○			○
11			○	ペットライフコーディネーター	「動物と暮らすしあわせ」をテーマに、猫写真家のグラビアや、投稿写真、いざという時に役立つ飼育ガイド、バラエティーに富んだ知識を身に着ける。	1 通年	64			○			○		○	
12			○	ペットショッププランニング	近隣や周囲の人々に迷惑を及ぼし、またペットそのものに害を及ぼさないように、ペットを飼うには様々な方法があり、ペットショップの経営・運営法を学ぶ。	1 通年	64			○			○			○

13	○	小動物	幼児はボール遊び、積み木、お遊戯、砂場遊びと同様に、鳥や小動物の飼育と触れ合い、学級花壇での花や野菜の栽培など大切な経験である。	1 通 年	64				○	○	○		
14	○	動物機能形態学Ⅰ・Ⅱ	有用動物の発生、発育、成長の過程での、組織細胞化学ならびに分子生物学的手法によって研究し、動物資源生産への応用とその向上を目指している。	1 通 年	64			○		○		○	
15	○	動物栄養学	動物栄養学とは、食物に含まれる栄養素の代謝と働き、過不足の影響などについて論ずる科学であるが、比較栄養学の要素が合わせて学習する。	1 通 年	64			○		○		○	
16	○	動物医療関連法規	動物に関する法規をまとめたもの。関係法規は獣医師である限りは、きちんと認識していることが前提である。毎日の診療を行うための大原則。	1 通 年	64			○		○		○	
17	○	ペット業界研究	業界研究は、自己分析や企業研究と同様に、就活においてとても重要なもの。業界研究を行うことで、業界や業種への理解を深めるための学習。	1 通 年	64			○		○		○	
18	○	動物行動学Ⅰ	動物の行動を研究する生物学の一分野。心理学・生態学・生理学なども駆使して総合的に理解しようとするもの。エソロジー。比較行動学も並行して学習する。	1 通 年	64			○		○		○	
19	○	飼養管理学	動物の疾病に対する食事療法を理解することから、栄養ケア・マネジメントを中心とした総合的な傷病動物の栄養管理として大きく捉えられることが必要になった。	1 通 年	64			○		○		○	
20	○	動物臨床検査学実習(1)(2)	動物看護、動物臨床検査学と聞くと難しい印象を受けるが、レントゲン検査、超音波検査、心電図検査のことで、動物病院の基礎治療である。	1 通 年	64					○	○		○
21	○	外科動物看護実習Ⅰ	動物看護師の業務内容・診療関連業務、外科手術関連業務、供血動物の管理、医療機器の管理ごとに、業務内容を学習する。	1 通 年	64					○	○		○
22	○	動物看護実習Ⅰ	法などを習得する動物看護実習や、動物の健康状態を把握し病気の診断や治療の決定に重要な役割を果たす臨床検査実習などを学ぶ。	1 通 年	64					○	○		○
23	○	病原体・衛生管理	ウイルス感染を未然に予防するための感染症に関する知識や対策、目に見えない病原体や寄生虫が、どこから、どのように侵入するのかを学習する。	1 半 期	32			○		○		○	
24	○	動物繁殖学/動物健康管理	動物の生殖に関わる生理現象、生体機構を概観し、その理論を学習する。初めて動物を学ぶ学生のための基礎講義である。	1 半 期	32			○		○		○	
25	○	キャリアプランニングⅠ	就職・入社試験対策として、一般教養の学習とともに、自己分析・模擬面接などの実践を通し内定に結び付ける力を身に付ける。	1 通 年	64			○		○		○	
26	○	ビジネス能力3級	社会人として必要なビジネス理論・社会常識などの技能レベルを客観的に基準で評価するビジネス文書能力検定・ビジネス能力検定ジョブパスの3級取得を目指す。	1 通 年	64			○		○		○	
27	○	Word演習/IT活用	ビジネス文書作成、ダイレクトメール作成等、実務レベルでの知識・技術を習得する。	1 通 年	64					○	○		○

28	○		グルーミング 実習(1)～ (8)	犬の扱い方、道具の扱い方、ベーシック作業の重要性を理解しながら、技術の習得を目指す。	1 通 年	512		△	○	○							
29	○		愛玩動物飼養 管理士2級	愛玩動物飼養管理士2級取得に向け、「動物愛護法」の理念・内容を理解し、飼い主様の様々な相談に対応する力を身に付ける。	1 通 年	64		○		○		○					
30	○		ペット健康管 理	犬の体の仕組み、健康管理法、様々な犬の病気の原因・症状・予防法などを学び、犬のケアに関する知識を習得する。	1 通 年	64		○		△	○		○				
31	○		犬種学	数多くの犬種の名称・性格の傾向・ルーツを学び、様々な犬種に関する知識を身に付ける。	1 通 年	64		○			○		○				
32	○		必須選択	猫の特徴・扱い方・犬との違い・種類を学び、犬だけでなく猫に関する知識も身に付け、昨今の業界のニーズに対応する力を身に付ける。	1 通 年	64		○		△	○			○	○		
33		○	トレーニング 実習(1)～(4)	家庭犬のしつけから、警察犬の調教に至るまで、あらゆる犬種の幼犬期から成犬期への訓練の方法を基礎から学ぶ。	1 通 年	128				○	○				○		
34		○	販売士検定対 策3級	ビジネス基礎とマーケティングの2科目に合格すれば、販売士検定3級科目、マーケティングが免除される。英語に関する出題もある。	1 通 年	64		○			○					○	
35		○	ペットライフ コーディネー ト	「動物と暮らすしあわせ」をテーマに、猫写真家のグラビアや、投稿写真、いざという時に役立つ飼育ガイド、バラエティーに富んだ知識を身に着ける。	1 通 年	64		○			○			○			
36		○	ペットショッ ププランニン グ	近隣や周囲の人々に迷惑を及ぼし、またペットそのものに害を及ぼさないように、ペットを飼うには様々な方法があり、ペットショップの経営・運営法を学ぶ。	1 通 年	64		○			○					○	
37		○	小動物	幼児はボール遊び、積み木、お遊戯、砂場遊びと同様に、鳥や小動物の飼育と触れ合い、学級花壇での花や野菜の栽培など大切な経験である。	1 通 年	64				○	○			○			
38		○	動物機能形態 学Ⅰ・Ⅱ	有用動物の発生、発育、成長の過程での、組織細胞化学ならびに分子生物学的手法によって研究し、動物資源生産への応用とその向上を目指している。	1 通 年	64		○			○					○	
39		○	動物栄養学	動物栄養学とは、食物に含まれる栄養素の代謝と働き、過不足の影響などについて論ずる科学であるが、比較栄養学の要素が合わせて学習する。	1 通 年	64		○			○					○	
40		○	動物医療関連 法規	動物に関係した法規を業めたもの。関係法規は獣医師である限りは、きちんと認識していることが前提である。毎日の診療を行うための大原則。	1 通 年	64		○			○					○	
41		○	ペット業界研 究	業界研究は、自己分析や企業研究と同様に、就活においてとても重要なもの。業界研究を行うことで、業界や業種への理解を深めるための学習。	1 通 年	64		○			○					○	
42		○	動物行動学Ⅰ	動物の行動を研究する生物学の一分野。心理学・生態学・生理学なども駆使して総合的に理解しようとするもの。エソロジー。比較行動学も並行して学習する。	1 通 年	64		○			○			○			

43	○	飼養管理学	動物の疾病に対する食事療法を理解することから、栄養ケア・マネジメントを中心とした総合的な傷病動物の栄養管理として大きく捉えられることが必要になった。	1 通 年	64	○			○		○							
44	○	動物臨床検査学実習(1)(2)	動物看護、動物臨床検査学と聞くと難しい印象を受けるが、レントゲン検査、超音波検査、心電図検査のことで、動物病院の基礎治療である。	1 通 年	64				○	○								○
45	○	外科動物看護実習I	動物看護師の業務内容・診療関連業務、外科手術関連業務、供血動物の管理、医療機器の管理ごとに、業務内容を学習する。	1 通 年	64				○	○								○
46	○	動物看護実習I	法などを習得する動物看護実習や、動物の健康状態を把握し病気の診断や治療の決定に重要な役割を果たす臨床検査実習などを学ぶ。	1 通 年	64				○	○								○
47	○	病原体・衛生管理	ウイルス感染を未然に予防するための感染症に関する知識や対策、目に見えない病原体や寄生虫が、どこから、どのように侵入するのかを学習する。	1 半 期	32	○					○							○
48	○	動物繁殖学/動物健康管理	動物の生殖に関わる生理現象、生体機構を概観し、その理論を学習する。初めて動物を学ぶ学生のための基礎講義である。	1 半 期	32	○					○							○
49																		
50																		
合計				48科目	1920単位時間( 単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。